WASON

女學雜誌

第二百七十四號
明治二十四年七月十八日發兌

一女學生の眞文章
歸省を送る
社說

宣教師派女學校革命の機
監督ヘヤー來渡、快刀を揮ふて大英斷せる事實を細記す、女學に注目する者必讀せよ。

流の葦
小說

小公子彌よ愛らし

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 274　JULY, 18TH.　1891.

EDITORIAL :—On Marriage.

CHILDREN'S COLUMN :—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

THOUGHTS AND FANCIES :—The Educator's Prayer. Teardrops.

MISCELLANEOUS :—Photographs. Changes in the Girls' School of the Episcopal Mission.

NOVELS :—"Imawa Mukashi." (Hisago.) "Nagare No Ashi." (Zekushi.)

CRITICAL NOTES :—

CONTRIBUTED ARTICLES :—

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

第二百七十四號目次

社說　女學生諸君が歸省を送る

兒籃　小公子（第七回、甲）、若松しづ子。

隨感　不言不問（教育者の祈）●涙滴々（片田舍に歸りたる人、都なる友に送りて。

雜錄　寫眞（渡邊むら子）●立教女學校大改革の始末●清斷（方寸子）●禁酒と社會改良問題。

小說　今はむかし（ひさご）●流れの蘆（二節、かつら）（𣇃空子）。

批評　閣中政治家●辻占賣●長者鑑●護教。

女報　さまぐ。

日本全國卒業女學生姓名一覽。

問答　數件。

週報

物價

第三回夏期學校

愈來ル十七日ヨリ開校ス

校費一十錢　宿費一日分十七錢

委員上領純一 箱根驛旅宿石内彌斗太方ニ在リ入校者ハ就テ申込マルヘシ

新版書籍大賣捌　（女學雜誌社）

●木村駿吉君著

女學校用 **新編小物理學** 上製價六十五錢郵稅六錢 並製同五十錢郵稅四錢

右新書本社にて大賣捌致候に付地方注文へは**無郵稅**にて定價のまゝ需めに應ずべく候。尙ほ此書は女學雜誌二百六十七號にて**細評**致候に付一覽ありたく甚有益の書と信じ申候

雅俗諸躰 **作文口授** 全

鈴木弘恭先生口述

一名國文敎科書

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ擧ラレタリ此書ヲ一目セバ如何ナル初學ト雖ヒ消息記事論說諸躰ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルベシ諸君速ニ購ヲ試ミ給ヘ

出版所　神田美土代町四丁目五番地　敬文堂

賣捌所　麴町下六番町六番地　女學雜誌社

女學雜誌大安賣

第百號より、第二百號に至る迄、欠號なく調ひ居るもの多少有之候まゝ**百巻**をば備に**一圓五十錢**にて前例の如く賣拂ひ可申候、其后欠號を生ずる分八十冊にて**金一圓の**割にて相そろへ賣捌可申候但何れも一と通りづゝ買入を要す。

女學雜誌　第二百七十四號
明治二十四年七月十八日發兌

社説

女學生諸君が歸省を送る

（一）同情

われ爾曹を遣はすは、羊を狼の中に入るが如し、故に蛇の如く智く鴿の如く馴良かれ、愼しみて人に戒心せよ、蓋、人なんぢらを集議所に解し、又その會堂にて鞭うつべければ也、又わが故によりて侯伯をよび王の前に曳るべし、是かれらと異邦の人とに證を爲さんが爲なり、人なんぢらを解さば何如に何を言はんと思ひ煩らふ勿れ、其とき言ふべき事は爾曹に賜はるべし、是なんぢら自から言ふに非ず爾曹の父の靈その衷に在りて言ふなり。

十二の弟子、環坐して仰ぎ見る、主、感慨同情に堪へず、熱愛を吐露して、行途の危險を警告し、而も信じて之に出で會ふべきの覺悟を教示す。

各女學校の校長、一歳周年の伴侶を四方に散らし、幼な子が各自相別るゝを送つて、寂として人なき校舍の門前に佇立す。其心情察すべき哉。古しへを想ひ、今を思ふて、只管ら同情の念切なり。吾人も亦た所感を記るして、行く人を送らばやと思へり。以て些さか先生の心を慰さめん、且つ以て些さか、弟子の參考に供えん。

（二）道の形

太初に道あり、道は即はち神なり。左れど、神の道は形ちなきが故に、光りて人目に明らかなること能わず、此に於てか、万物の形ちを取りて天地に現はれ、顯然として、到る所ろに存す。それ人の見ることを得ざる神の限りなき能と其神性とは、造られたる物により創めの世より此の方、さとり得て明らかに見るべし。

基督世に來りて云く、我は豫言者の教を破ぶらんが爲に來らず、之を成就せんが爲めに來れり、我が言ふ所ろは新らしき教にあらず、既に汝等が知れる所ろのものなりと。夫れ、人を愛せよと教ゆる所ろの聲は、未開蠻野の人の心にも既に聞えたり、身を捐て、仁を成せよと云ふ所ろの教へは、太初母が子を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

生みたるとあらんその日既に人間界に知れ渡りたり、且つ夫れ神を敬するの心念に至りては、人皆な之れあり、若し詮究して之を言はば、人類未だ嘗て眞の無神論を吐かず、たゞ汝の言ふ所ろの神は、我が言ふ所ろの神に異なりと辨ずるに過ぎざる也。聖人世に出で、異言あるなし、彼はたゞ平凡にして而して人の行い得ざりしとを行いたる耳。基督の世に出でたる殆んど亦た之に類す。彼は新奇の說を語らず、たゞ凡常の人の理想する所ろにして而して未だ嘗て實行せられざりし所ろのものを行に示したるのみ。此を以て其說や新らしからずと雖ども、其行に至りては、古來未曾て有らず。故に其眞理は到底此の人を待て初めて發揮したりと云ふべき也。

プラト云く、人の靈は素と神界に逍遥遊せり、后ち肉に入りて生れ出でたり、之れ靈の爲めの墜落なりと。吾人は此說の是非を言はず、然れども、人もし肉を取りて世に出でずんば遂に人あるとを知る可らず。云く天地間に人ありと、吾人もし其形ちを見ずば、喩へば詩人が天の使を想像するが如けん。髣髴として捉らへ難し。

神を呼びて、天の父と云へり。神の愛は、人に父あるの故を以て、之を明らかにするとを得たり。基督の十字架の血と云へり。血の流るゝとによりて、基督の忍苦を察するとを得たり。人あらずんば、人情を明らかにすると能はず、人情明らかならずんば、公義仁愛の德を顯昭すると能はず、故に呱々として、綠見生れ、至大至妙の眞理、此に於てか初て發揮する也。故に、万づの物ありて、初めて物理を明らかに示し、人類ありて、初めて人情天道を輝かす者なり。惣て、眞理を世に示すには、之が無形の象を寄托するの有形物なくんばある可らず。

(三) 歸　省

男女もと是れ同等の人なり、もし女性を以て卑しとせば、わが母を何如にせん。

女子等しく敎ゆべし。人は云ふ、女性にニウトンなしと、然れども男子中にニウトンあるは唯一人にあらずや。

女學の奬めざる可らざるの理、人大方は之を辨知したり。然れども、女學を得たる其人の品格德性は果して何如なるべき、人多くは未だ之を見ず。故に、女學生の何如なる人物にてあり、女學の成果の何如なる摸樣にてあるかは、人多くは未だ之を知らず。

父兄は、時勢の言ふ所ろを聞き、わが子妹を愛するによりて之をして時勢に後れしめざらんヿを願ひ、夙に諸君を都に上らせ、學窓に月日を送らしめ玉へり。わが子妹、何如になれるか、彼女の友は、依然として郷閭にあり、洗濯ぬい針に餘念なく、年を過して左したる變化あらず、わが子妹は多くの學費を費やし、名だかき學校に入り、數多の善き人と交際したらんに、其進步の程定めてめざしかるべしと豫想し、諸君が父兄は促々として待てり、母は胸を躍らせて待てり、婢僕は提敬を表するの風評を以て之を待てり。

女學生諸君が、此の界內に歸省するは、女子敎育の眞理を形に現はし、身を以て女學の結果を示すものなり。父兄母妹は、之によりて初めて「女學」と云へるもの丶形ちを見たり、此形に服するときは、則はち女學を崇尊せん、此形を嫌惡するときは、女學を擯斥せん、女學の勝敗進退は其形に存す、而して此形ちを示すものは即はち女學生なり。諸君今ま此形ちを示さんが爲めに各地にゆく。

諸君が行くは、道を傳へんとて四方に散亂せる主の弟子の如し。諸君を集議に渡し、諸君を風評の巷に鞭うつ者無しとも云ふ可らず。諸君は鴿の如く馴良に、且つ蛇の如く智からざる可らず。諸君は即はち彼等に證を爲さんとするものなり、諸君は口に言ふべきヿを思ひ煩ふなかれ、言ふよりも行ひを優れりとす、諸君が口の中に存する神の靈、自づから諸君が行ひに現はれて之を辨ずるヿを要す。

(四)警戒

(一)。諸君は先づ其行狀に愼しむべし。女學生の行狀には往々見事ならざるものあるなり。中には「君」、「僕」を以て、友を相呼び、男子にもあるまじきほどの無作法を爲す人あり。膝をつきて額を支へ、酸漿を口にして目を白くし、横ざまに馬の如く長くありて太平樂を言ふ女生、亦無きにしもあらず。諸君の多數は素より如此き人物にはあらず、左れど朝夕かゝる女生を目にして、自づから之に慣れ、惡習を大目に見て自然自らも亦た思はず之を行ふなどの奇談なきにしもあらず。心すべきは、其行狀なり。

左りとて無論飾るヿを奬むるにはあらず。飾れよとにはあらず心より若く愼しみ深かれと言ふ也。特に、過を見て仁を知るとあり、女生もし久しく其父兄と共にあらば、父兄は諸子が過ちを寛假して而して其長所を發見するヿもあるべし。左れ

ど僅々一二ヶ月間の歸省中、人々、たゞ女生のあら〳〵しき外狀を見て之に驚ろき、絕て海底の眞珠を探らずば、諸君は只だ漂草暴波と一般ならんのみ。かくて父兄の心を痛めしむることは、子妹女生の最大不幸にはあらずや。

(二)。諸君は亦た家事に助力すべし。諸君は周年外にありて、母の爲めにちとの助けもせず、幼けなき弟妹の爲に盡す所ろもなく、父兄の爲に何の用をも爲したることなし、之れ愛ある女生が爲めに心苦しき限りならずや。今や、歸りて家に在り、而して日月暫且にして早々に過んとす。故に、朝たには早く起きて、母に代りて用を辨じ、夕べには父兄に侍べりて腰をもみ、足をさすり、午后用なく暇ある折々は、弟妹を携さへて近傍の山川に遊び之を慰さむべし。人の爲めに事を爲すは樂しみ極まりなし、況んやわが愛する所ろの人の爲めに力を盡す、樂しみ之に若くものあらんや。而して、日月は早々に過んとす。諸君、寸暇も徒づらにせずして此樂を盡せ。

弟妹は家に在りて未だ京に上り留學することを得ざる也、而して諸君は獨り其益を得たり。父兄は家に在りて日々營々勞勉し、月八九圓の金を送りて諸君に與ふ、諸君が負ふ所ろ極めて重し、母は己を助くべき長女を膝下より離ち、幼けなき者のみ自から介抱し、朝々夜々、たゞ家事にかゝづらひて外出したまひしこともあらず。諸君之を思ふときは、感謝の念潮の湧くが如けん。

諸君は學校に居て、寧ろ學問をのみ旨としたり、無きにはあらざるべけれど家政の實修には自から疎遠なることを憂ひたるべし、而して之れを實修するは、實に今の歸省中にてあるなり、母に就きて之を聞き、僕婢に就て之を尋ね、勤勉と謙遜とを以て、能く之を學ぶべし。

(三)。諸君は決して小理窟を言ふこと勿れ、小理窟は眞理を發揚するものにあらず、之を隱すものなり。

諸君論辨の價ひを知れりや、論辨は眞理を人の心に致たすにあるあり、故にたとひ論辨に勝つと云ふと雖ども、人もし之に心服せずば、未だ論辨の目的を達せずと云はざるを得ず。百戰百勝は戰の善なるものにあらず。戰はずして勝つ之を戰の上乘となす。論爭して人の口を箝し、而して人をして腹中に憤怒せしめば、たとひ口辨の上に於て勝利を奏せしとも、實は負けたるに均し。

況んや諸君は、故郷に歸るものなり、故郷は豫言者をすら尊とむとなし、安くんぞ一年留學の書生を先生視するとあらん、諸君もし小理屈を言はば、人は之を聞かざるのみあらず、之を嘲けるべく、嘲けるのみならず、之によりて女學生全躰を斥ぞけ以て、女學其ものを嫌惡せんとす、斯の如くば諸君が論辨はたま〳〵にて眞理を隱蔽するものとあらん。諸君は何を言はんと思ひ煩らふとなかれ、たゞ心中の靈が指示にしたがひ、平らかにして温かなるべし。

（五）決心

基督世に來り、叫びて云く、もし吾が言を信ぜずば、吾が行によりて信ぜよ、來りて見よ、吾は光なり、生命なり、道なりと。

吾人が世表に立ち、天地万象の間に生き存らふると、偶然の緣にあらず、各自天職あり、之れを盡して眞理の形を世上に發揮す。此の故に、吾人は各自皆な、光なり、道なり、生命なり。あゝ友よ、諸君は堂々として如此く伸ぶるを得る乎、曰く、來りて見よ、妾は、光なり、道なり、生命ありと。此の覺悟なくんば、道を傳ふると能はず。

兒籃

小公子。

若松しづ子

第七回（甲）

翌朝フォントルロイ殿が眼を覺まされると、（前夜寐處へ抱かれて連れられた時は眼が覺めなかつたので）直ぐ耳へ這入つたのは、煖宰爐の火の燃へる音と、人が小聲で話をしてゐるのでした。誰れかとふいつて居ました、

ドウソンや、おまへ氣を付けて其事は何んとも、申すのではないよ、おつかさまが御一處でない譯は、一向に御存じないのだから、そつくり其まゝお知らせ申してはならないのだからね

すると外の聲で

あなた御前の仰ならば、默つても居ませう、ですがねイわたくしの樣なお婢でこんなとをあなたへ申し上てどんなもんですか存じませんが、あんなに奇麗で、若くつて、連添ふ方に別たお方を、今度は又血を別たお子樣までも離しておしまいなさるつて、本當に情ないなされ樣だつて、わたくし、

なんぞは可愛そうで仕方が御座いませんよ、ソレニマアどふでせう、お美麗と、どふ見ても殿様に生れついておいでなさるじや有ませんか、チェームスどんや、タマスどんが夕部下へ退がつて來て、マア二人口を揃へて云ふんでござい升よ、アノ若様の様な若様生れてから見たとがないつて、おまけにチイ、あなたの前でそう申しては何んですが、時よりはほんとうになされ方があんまりで、わたくしどもでさへ口惜しくつてごう腹で、こゝが煮へかへる様なとのある其お方とお食事を遊ばすのに、子守地藏見た様なさも優しい人とでも入らつしやる様なおどけない調子で、行儀も好く、可愛らしかつたとつてチ、それから子、チェームスどんとわたくしとをお呼になつて、書齋からお二階までお連れ申して、參れつて仰しやるので、チェームスどんが其まゝお抱き申すと、あの可愛らしいお顔はポツト櫻色になつてチェームスどんの肩の處へおつむりを載せて、お髮のきら〱と奇麗に下つてゐた處の美麗くつて、可愛くつて、何んとも云へません様でしたと、あんなとこ、ほんとうに見度つて見られやしませんよ、そうしてチ、御前だつてまんざらお眼がなかつた様でもないんですよ、デモ、何んだか頻りに見て入つしつて、チェームスどんに「氣を附けて、眼を覺させぬ様にしろ」つておつしやるんですもの。

此時セドリツクは寐反りをして、眼を開けて見ました。部屋の中には二人の婦人が居ました。そうして花模様のはでな白紗の窓掛や蓐がそろへて有つて、室は万事奇麗で、爽快に出來て居りました。暖室爐には火がたいて有つて、蔦が一面に纒着た窓からは、朝日がさし込んで居りました。間もなく二人が一處に側へ來るのを見ると、一人は取締のメロン夫人で、モウ一人は深切で、極く氣立の優しそうな顔をした、見ても心持の好い様な中年增でした。メロン夫人がセドリツクに言葉をかけて、

若様、お早う存じます、昨夜はよくお休みになり升たか。

セドリツクは眼を磨つて、ニツコリ笑ひました、

お早う、僕チ、こゝに居るの知りませんかつたよ。

といひ升た。取締は、

其筈で御座い升、うたゝ寐を遊ばした處を、ソツトお二階へお連れ申したので御座い升もの、これが只今から若様のお

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寐間になるので、こゝに居り升のは、ドウソンと申して、これから若様のお世話を申すので御坐います。

セドリツクは床の上で起き直り、丁度侯爵さまに握手するとて手を伸べたと同じ調子に、ドウソンに手を出しました。

あなた御機嫌は如何?、僕を世話しに來て呉れて、誠に有難う。

といひますと、取締が、ほゝ笑みながら、

若様、これから、御用の時はドウソンとお呼び遊しましよ、ドウソンと呼ばれつけて居り升から、

といひますと、セドリツクが、

アノ、ミス(孃の意)ドウソンといふんですか、ミセス(夫人の意)ドウソンといふんですか?、

と問ひますと、ドウソンハ、メロン夫人の口を開くのを待たず、顔一杯に笑ひを見せて、

マア、ミスもミセスも入つたこつちやございませんよ、勿躰ない、サア、お眼ざめならば、ドウソンがお召替へをおさせ申して、それからお居間で御膳をめし上るとに致しませうでは御坐いませんか?。

といひますと、セドリツクが答へて、

有難う、だつて、僕ハモウ幾年か前に自分で着物を着るのを習ひましたよ、かあさんが教て呉れたんです、メレー人でするんでせう、(洗濯でも何でも、)だから、そんなに世話やかせちやいけないんですもの、僕は湯にだつて一人で這入れ升よ、隨分よく洗へるんです、あとで隅の方さへ少しあゝためてくれゝば、

ドウソンと取締は、何故か、此時顔を見合せて居ました、メロン夫人はまた、

若様、何んでも御用を仰しやれば、ドウソンが致しますよ。

といひ升と、ドウソンが慰める樣な、人の好さそうな聲で、

いたしますとも〳〵、何でもいたします、若様お好なら、お一人でお召替へ遊しまし、ドウソンはお側でお手傳をして宜い時は、いつでもいたしますから。

どふも有がたう、ボタンを掛ける時が、チツト六ヶ敷ですから、その時は誰かに頼まなくつちやナ。

セドリツクはドウソンが大變深切な人だと思つて、湯浴と着物の着替が濟まない中に、大層中好になつて、さま〴〵ドウソン

ソの事を尋ね出しました。ドウソンの亭主が兵卒で有つて本當の戰で討死したといふ事と息子は船乗りで、久しい前から航海に行つて居るといふ事と此人が海賊や、人食島や支那人や、土耳兒人を見て來て珍らしい貝売や珊瑚のかけなどを採つて歸つて來てゐるといふ事、ドウソンが自分の櫃の中に入れて持つて居るのが有るから、いつでも見せて呉れるといふ事、みんなセドリツクには面白い話でした。ドウソンは昔しから子供の世話斗りして居たさうで矢張りこれまでも英國のある大家でウイニス、ヴオーンと云ふ可愛らしい姫君のお世話をして居たのだそうでした。此話をして、ドウソンがいひますのに、

そうして、其ひいさまは、若様の御親類續で御座升から、いつかお逢になるかも知れませんよ。

そうですかチ、僕は女の子の友だちは持つた事有ませんけれど、僕いつでも女の子見るのが好ですよ、奇麗だとネ。

さて朝飯を食する爲に次の坐敷へ行まして、其大きいのに驚ろき、ドウソンに聞くと、まだそれに續いて坐敷が有つて、それも自分のと云ふ事を知りました時、自分のいかにも少さい者で、これほどの用意をして待たれるに相應しくないといふ事を、又深く感じまして、膳立の奇麗にして有る處に腰をかけながら、ドウソンに向ひ、大層意氣込んでこふ言ひました、

僕はこんなに少さい子だのに、こんな大きなお城の中に住んでゐて、大きな部屋をソウいくつも持つてゐるなんで、なんだか大變デスチ、

ドウソンは慰めて、

なんのマア、始は少し變なお心持がなさるかも知れませんが、直つきにお慣れ遊ばし升よ、そうしてどんなに宜しうございませう、こんなに美しい處で御坐い升もの

セドリツクは少さい嘆息をついて、

それは奇麗な處だけれど、かあさんがこんなに戀しくさへなければ、よつぽど好いは、ダツチ、僕、いつでも朝御膳を一處にたべたんですもの、そうして、かあさんのお茶へ乳だの、砂糖だの入れて上たり、燒パンを上げたりしたんですもの、そんなに中よくしてたんですもの。

ドウソンは、又慰めやうとして、

アヽそれに違ひ御座い升まいがチ、それでも毎日お眼にお掛りで御座いませう、そうすれば、其時どんなにおつか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さまにお話し遊ばすとか澤山でど、んなにお樂しみでせう、それからまだ〳〵お樂しみなとが有ますよ、今に少し方々お歩ろい遊ばして、御覽じろ、犬だの、お廐の中に澤山繋いで有るお馬だの、ソウ〳〵それから其中に若樣がキット御覽になり度のが、一匹をり升よ…………

セドリックは、聲をたてゝ、

オヤ、ソウ…、僕は馬が大好です、僕、チムつて云ふのが大好でした、それはチ、ホツブスさんの荷車についてた馬でしたよ、强情張らない時は、隨分奇麗ナ馬でしたよ。

さ樣で御座い升か、兎も角、アノお廐に居るのを御覽遊ばせ、それはそうと、マアどうしませう、まだお次の御座敷も御覽にならないじや有りませんか。

セドリックは、

そこに何があるの？、

御膳をお濟まし遊ばすと、御案内いたしますよ。

とふ聞いて、自然、何が有るかと頻りに見たくなり、勢出して、食事にかゝりました。ドウソンが餘り樣子有氣な、妙な顏をして居る處を見れば、キット其坐敷には何か大した物があるに違ひないと思ひました。暫らくしてから、椅子を辷下り

サア、モウおしまい、サアいつて見度もんですチ。

ドウソンは頭點いて、先へ立つて行ましたが、尙子細らしい樣なとぼけた樣な顏をして居ましたから、セドリックはます〳〵一處懸命になりました。

隨感

不言不聞

○教育者の祈

謹しみて謝す、此價ひなきものを今の地位に置き、些さかにても大御手の奇しき事業に用ひ玉ふとを謝す、我が摘む所ろの花の反りて美くしきが如く、我が踏む所ろの草の反りて滑らかなるが如く、我れの下に屬すと云ふ所のものにに反りて多くの好き人あり、爾ち、我に命じて之を保護せよと云ふ、我れの保護何の價値あらんや、爾ち、我に命じて之を敎へよと云ふ、我れの之を敎ゆるに堪へざるは、既に知ろし召すが如し、我が心にうつる爾の淸き御敎は我

を招きて我を聖ならしめんとす、我亦た力を盡くし情ばせを盡くし之に近づかんとを欲すれど、一善未だ成らざるに一悪すでに生ず、我れかく自からをだに堅くすると能はず人を導びくとの難きは、既に知ろしめすが如し。爾ち、願はくは我を解き、我をして此地位より去らしめ玉へ。左れど我れの能く此地位に適するに至らんとを願はざるにあらず、我れ聖化して御德に似るは何よりも樂し、心の之を望むと何よりも切なり。左れば我れの今ま斯して在らんと御德を汚すとせば速かに我をして去らしめ玉へ。左れど爾は石を變へて人となし生物を日に日に進化せしめ玉ふ、願くは我をして漸次に變わらしめ、爾の御業に使はるゝに足るものとなさしめ玉へ。多くの若き良き人あり世は反りて之を愚しくし、彼等が長じて人となると共にいよ〳〵之を獸の如くせんとす、上に立つ所ろのもの大率ね好からず、人をして之に倣ひ日に日に墜落せしむ、願くは速かに爾ちが國を世に來らせ、爾ちが民を世に下し、世を化して聖ならしめ玉へ、彼の多くの若き善き人をして今のまゝに發達せしめ、其の美を失なふとなくしていよ〳〵進歩せしめ、而して彼等を我れ等の上に立たせ、我等を感化して善なるものとならしめ玉へ。爾は基督を與へ、活ける人を示して我等を導びき玉ふ、左れど我等は尙ほ多くの生ける模範を要す、我等が友、我等の先輩の中に、更に多く爾に似る所ろの活ける人を出さしめ玉へ。

涙滴々

○片田舍に歸りたる人、都なる友に送りて

……御いそがわしきを知りつゝ繁々手紙差上るはと自からいましむるも心細さのみ優りて堪ねば切てもの心ヤリにと何より樂しみにして認たむるなれば其都度御返事など決して下されずとも宜しければ只御判讀下さる丈の時を與へ玉はらば何よりうれしく存じ候。……

三日出の御手紙に……とやらに居らせられて御一泊遊ばすようなりし故四日の晩は何如なる處に居玉ふならんと思へど知らぬ處なれば思ひやるすべなく常の晩よりましてさびしく覺えしが先生は月が御すきなれば必らず眺め玉うならん遠くはあれ居るとも同じ影をながむるとのうれしさよと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雨戸打ひらきしにあはれ小雨ふりてなつかしき姿見えずあまりのさびしさに堪ねば御祈りして伏戸に入りしは十一時なりしかど一時を過て眠り候。
先生は常に我心のうちに居玉ふありと樂しみつゝ神様に仕へ父母兄にかしづき弟妹をいたはりつゝくらし居候へば御心安くお思召被下度候。
私此頃の樂は只御手紙の來るを待つと御寫眞を見ると不幸なる姉の爲め力を盡すと書見すると聖書を讀むと祈りするとにて候。
我身をかへり見るにつけ先生の御愛し下されしとの如何に深きかと思へば誠にうれしく此後如何なる苦にあふも更になやみは之なく候此後とも何ありとも御さしづなし被下度せめては御さしづ戴く斗りもうれしく難有き事と存じ候私はもとより過分の愛は望まず候へども只清くまじりなき心にて生命をさゝぐるばかり先生を敬愛して先生の爲め身も忘れて神の御前に祈る少女ありと記臆致しおき下さるればたとひ御手紙下さらずともうれしく片田舍にありて御すきの月を友に清くくらしつゝ天にすゝむべく候。

雜録

寫眞

渡邊むら子

女學子曰く、文の精は眞實なるにあり。もし眞心より出でずば、錦繡のあやもつゞれに均し。左の一文章は、片田舍に住へる年若き女學生の作なれど、其思ひの濃やかにして眞心の切なるは、宛から世故を經歴したる長年の婦人の如し。而も情けあつく孝心深くして幼ならしきうちに無限の愛情を凝めたる趣きは、其味はひ得て言ひ盡し難し。眞情文に露はれて字句飾りなきに光を發つ、蓋し文の至れるもの歟。難き文字を列ね、輕き調子を合せ、只だ文章を作らんとて文章を作る浮れ人の所爲に比べて、感一層深し。則はち收めて世の志ある人に示すと云ふ。

春雨そぼふりていとつれ／＼なる夕ぐれ、かのもろこしの何がしの、旅館無人墓雨魂とかいひけん言の葉など思ひ出るをりから、ふるさとなる母君のもとより文きたりぬ。いそぎ開き見るに、いさゝかつゝがなう居給ふよしなるに、まづいとうれしくよみもてゆくに、我眼の病の樣子をこま／＼ととひ給

ひ、あしき風などに冒されぬ樣に心せよ。又都にとゞまる事の、思ひがけず長くなりしに、近き頃うつしつる寫眞あらば、送りおこせよとありぬ。例ながら嬉しきかず〳〵の言の葉も、ひとしほたはしう覺えて、手箱に入れて持ち來りし母君の寫眞をみるに、去年うつし給へるを、十年ばかり前にうつしたまへるにくらぶれば、おなじ人とも覺えぬまで、年老ひ目などくぼみ給ひて、いといたく心づかひしたまへる樣のしるきに、これもわれらの爲にやと、いと堪えがたく覺えぬ。ついでに我幼き時うつしたるが、二三枚あるを見るに、乳母に抱かれつゝ思ふことなげにうち笑めるは、三歳のときなりしとか聞きぬ。敎へられしまゝに目を見はりたるさまの、たとへがたなくをかしきに、おのれも一度はかく幼き時のありしよと、今更に父母の御惠の深きを思ひいでぬ。又羽織をゆがめるまゝにきて、かみのおくれ毛かきあげもせず打みだれたるまゝにて、さびしげなるおもゝちせるは、十二歳のとき中府なる學校に入りて、一月ばかりたちし時、うつしゝなり。なよくれとなく心づけ給ふ母君のもとを、初めてはなれてよそ人のうちにいりし樣の一めに志らるゝよとて、姉君などの笑はれしが、今見るにげにさなりと思はるゝもをかし。又髮は上卷とやらんに結び、くつなどはきて立てるさますべて男のよそほひせしは、男とやいはまし、女とやいはまし。とは今より三とせばかり前にうつしゝなり。此時は、女にても、物まなびするものは、男の樣ならではとの心まよひより、ことさらに異樣なるさまするとの世に行はれて、心ある人々のうちなげきしに、おのれもその一人となりしこそうたてけれと打悔ゆれば、いといたく恥かしきに、みるたび每にやりすてんとは思へど、後のいましめにとて、殘しおきつるなりけり。されど此の寫眞のみは、母君には今まで見せまゐらせず、かくしおきたりき。かくおのれひとりにても、顏のかたちの變りゆくにつれて心もともに變りもてゆくを思へば、人の心のおのがしゝことなれるもことはりなりかし。しかはあれども、たゞ子を思ふ親の心ばかりは、人はさらなり、鳥けもののまでもひとしきは、いとあやしくたへなる物にこそ。さて母君のもとには、去年の冬師の君とゝもに、同じく歌文の敎をうくる友垣とゝもにうつしゝをこそとはやくより思ひしかど、さきにほへる都の花の中に、み山木のたゞ一本たちま

じりしなれば、きはだちていやじうみゆるが、われながらやさしう、今まで送らでありしを。又思ひめぐらせば、母君はたゞ愛といふ一すぢの目にてみたまへば、わが姿のひなびたる事々は心づきたまはず。たゞかくみめかたちみやびやかにして、學びの道にすぐれたまふ人々とともに、日毎に師の君の御敎をうくる事をば、いかにうれしとよろこび給ふらんと思ひて、かたへなる母君の寫眞を見れば、さなりとほゝ笑みたまふさまのみゆるに、明日はとくおくりまゐらせんと思ひさだめつ。とかくして打みやれば、雨はいつのまに晴にけん。まだとぢやらぬまどに、さしいる月のかげ、いとなつかしければ、あはれとみつゝはるかに打ちながむる折しも、ふるさとをさしてかへる雁の、かすみがくれにいそぎゆくがほのかにみえぬ。

監督敎會女學校大改革の始末

哲

監督敎會には、近頃ろ非尋常の改革あり。此は監督ウィリアム、ホパルト、へーヤ氏新たに渡來し、鬱積したる多年の情弊を亂麻を斷つが如くに快斷し、愕ろくべき果決聰明の英斷を以て一々處理せられたるに因る。

小にも築地に於ける立敎女學校の事は取分け見ざまし、今ま左に其實情を記すものは、一つには年來之あらんが爲めに密かに熱心盡力ありたる本邦敎師の忍耐を顯はさんが爲め、二には、他の多くの宣敎師派女學校に於て、願はくは亦此英斷聰明に倣ふことあらんとの爲めにて、今の西洋女學の弊を歎く人々に淺からぬ同情を表するとあるを以てのゆゑ也。

立敎女學校

は米國傳道會社の所有にして年々の資金悉皆同會社より支辨し學校一切の事總て米國人の手にあり日本の敎師は只其補助を爲すのみにてありき。

是れ當然の數

にて決して奇しむべきことにはあられど外國人の常として本邦の人情に通ぜず元と切なる愛情を以て敎育に熱心なるには相違なけれど自づからにして要緊に外ること多し。日本の敎師は久しく之を慨し如何にもして其改良策を運らさばやと思へど校の維持を獨立せしむるにあらざれば亦た獨立の敎育を施こしがたきは勿論なれば諸敎員が熱心慷慨凝つて一の强固なる團體となり玆に

立敎女學校同志會

なるものを組織し有給の敎師は月々其給料の幾分を義捐し無給の敎師は他に餘暇の仕事を見出して勞を義捐し且つ有志者に說きて寄附を請ひ今に至りて多少の貯蓄金を得るに至れりと云ふ。但しかゝる年來の企望は日を追ふて熱烈なりと云へど豈さかも破壞的の精神を存せずいつかは外人に平和同等の協議を盡して女學校を有益實際の途に導びくの日あらんと待ちうけし折柄

監督ヘヤー氏渡來せり

則はち彼の同志會の人々は氏の質問に應じて一々女學校目下の弊を擧げ其改良を望み且つ此後能く内外の教師一致して相ひ提携し校運の進歩を計るか左なくば之を全く日本人の手に一任されたし幸にして後の法方を取らるゝことならば我々日本教師は全く身を献げ無給にて教育の任に當り必ず我々の主義を貫徹すべしと申されたるに、氏は答へて我等宣教師が日本に渡來せしは

日本人を養成する爲にて

米國人を養成せんとの主意にあらず故に万事日本人の助言を得て事を成すは當然の事なり追て如何にか決すべしと約せらる。其後某の日女學校に

卒業の式ありけり

監督之に臨席し式終りて同志會の主幹力大須賀亮一氏を其私宅に招き謂はるゝやうは本日の式中英語英文の熱達驚ろくの外なし實に其妙に進せり之れ畢竟外國の學問を事にして大切なる日本の學科を忽せにせし確證なり大ひに改良せざる可らずと。他の一般の西洋人は女生が英語の巧みなるに氣を引かれ居るの際氏は其欠點を烱察看破されたるの卓見服すべきものあり。此より先き氏は亦た

試驗中に屢ば出校し

已れは英語を以て此問題を問ひ別に通譯者をして同じ風の日本の問題を問はしめ其答を聞て比較し英語の方の如く巧みならざるなど視察して一々手帳に控え深く女學校の改良に注目されける。氏は米國傳道會社中にても英斷家の聞えある人ゆへ早晩何如にかなるべしと人々密かに待まうけし折り突然

スグキタレ

の電報を王子村に閑居する彼の大須賀亮一氏に發し之を引見して氏の謂はるゝには、此度女學校長米人某孃を辭職せしめたり（一夜殿貴し女史終夜涙にくれたり）此后女學校の事務を日本教師に全任すとの事にて、主なる箇條は建物を日本人に全委す、監督の指命を以て評議員四名を置き内一名を外人とし一名を日本人とする事、教員の任免は日本人之を撰定し監督之を任免する事、外國婦人一名を教師として給し其給料は會社より支給したゞ教授時間學校に出づるのみにて一切舎内其他の事に關せざると、ミッション教會などの關係は従前の如き事などにて向ふ一ヶ年間之を試みんとのことなりぬ。而して費用は月に三十五弗づゝ會社より補助するとにて校舎萬般の費用を引去り殘りを以て教員の給料と致すとさし大須賀君初め其他にて一切之を擔當するとさなりぬ。

之れ何等好快の吉報ぞや。願はくは他の幾多の宗派幾多の宣教師諸君も速かにかゝる英斷に則つとり早く其女校を改革して今の日本の眞用に適するものと爲されんことを。

○聖断

方寸子

疑團眼前に蝟集し來れば、端然容を正し、肅然神を靜めて默禱すべし、紛々の雲、濛々の霧、忽焉として消え、一道の正路、照々として見ゆべし。是非は是非の心もて定むる能はず、利害は利害の念もて判ずる能はず。されば、是非を定めんと欲せば先づ是非の心を去れ、即ち公明の是非定まるを得ん。利害を判ぜんと欲せば先づ利害の念を斷て、玆に正大の利害を判するを得ん。諺に曰く、廬山の人、廬山の眞景を知らずと。蓋し何事、何物にまれ、之を判定せんと欲せば、己れ先づ判定するものゝ外に在るを要す。己れ外に立たずして、如何でか其是非利害を判定するを得ん。然らば如何にして外に立ち得べき。曰く默禱あるのみ。端然容を正し、肅然神を淨

めて、默禱す、是非を忘れて而かも是非を誤れるを見ず、利害を離れて而かも利害を失せるを知らず。

○禁酒と社會改良問題

スコットランドの教會總會に禁酒會委員より報道せる所を左に記せん、始めに掲ぐる問題は嘗て國中五百有餘の教會に向つて發せしものなり、次の四答は報答中の數問なり、

(1)社會に於て如何なる階級の者と幾歳程の人、最も禁酒し難き有樣あるや。

(2)如何なる境遇が最も飲酒の風習を助け成すや。

(3)社會上、道德上の二點より觀察して飲酒の結果如何。

(4)現今の摸樣にては美風に傾くや、或は愈惡習を增すや。亦禁酒問題は他の事に如何なる關係ありや。

(5)今日迄試みし所にては如何なる方法が最も禁酒の美風を養成するや、亦未だ試みざる方法にては如何なる事宜しと思はるゝや。

(第一)青樓遊廓のなき地若くは最も稀なる地は禁酒多し。

(第二)之に反し青樓遊廓の多き地は飲酒の風最も盛にして從て之に伴なふ弊害多し。

(第三)遊廓青樓の增すこと及び、他に飲酒の便利を增す所のもの起る時は常に飲酒放蕩の風を盛になす。

(第四)青樓遊廓を禁ずる事及び他に飲酒に便なるものを禁ずるは大に禁酒の風を助け、且道德上の進步を助く。

家政

スザンナの家庭教育

まさを

此子は如何なる者にか成んとの豫想は獨りバプテスマのヨハネが生れし時のみならず凡そ子を擧げし人皆が思想すところあるべしジヨンウエスリーが生れしときも亦然りしならん然し彼は有名なる宗教家となれり彼が事業は盛大となれり外國新聞が彼が百年紀祝會の景況を報じ內國新聞も之が祝意を表し進では連合ウエスリー百年祭演說となりたり嗚呼此子は實に大なる者となれり之を誰の功にか歸せん彼が母スザンナ其名譽を荷ふべきなり彼は女性の歷史中に見出るゝ最も完全なる道德智識を具有せりと聞けり彼が小兒に對する希望とも

いふべきは彼等を神のものとなすなり、彼れは曾て言へり我家貧にして小兒のために財産を遺す能はず願くは彼等に善良の教育を施して自立するものとせんと彼が其家庭に於る教育は善良の習慣を養成するものにてありたり左の數件の如きは其家庭教育の一斑を窺ふに足るべし。

親の命令には直に從ひ其言葉を心に留めしむるの習慣。

食事の時の外何物をも與へざるの習慣。

物を求むるために我意を張るも之を靜めんためには何物をも與へざるの習慣。

安息日は他の日よりも靜肅になし祈禱の節靜聽するの習慣。

罪過を明白に言顯はさば決して罰することなきこと。

善行をなし殊に爲し難きをなしたる時は賞讃しもし善事をなさんとして過ちたる時は之を責めずして靜に教ること。

一度犯せし罪過によりて再度罰せざること。

許容なくば他人のものに手をつけざること。

約束せしことは決してたがはざること。

かくて宗教的感化を以て敬虔の念を養ひ聖書祈禱讃美歌等を以て精神的人物を養成しかくは大ある人物を出すに至れり。

小說

流れの葦

（三節）港（上）

是空子

横濱公園地の此向、塵を拂ふ列樹の間に、「西洋御料理」「萬華」の文字を、横に見せ、入口より竪に、竪より折れて二階に段々と登れば、忙はしき商人が爲めの、手輕き日本風西洋料理あり。日本風の西洋料理とは、合の子の一類にて、彼我の交際頻りなる場所柄には、萬事に大率ね合の子ありと知られたり。

家族なき洋人は、二度の食事を此處にてさびし氣に濟まし、やうやう西洋向に此頃ろ仲間入せし手代は、わざと修業の爲めとてフォーク、ナイフを此處に弄ぶも可笑し、其の他、エピキウラスの徒となりて只た食ひたきが故に食ふと云ふもあるべけれど、多くは此處を以て一種のクラブとなし、晝飯を此處に喫し互ひに顏を合はすを、半ばは晴れの如くし半ばは交際と心得、「我は毎日洋食す」と云ふ一項を商人界の多

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

少の信用となすもあるべし。
午少し下りたれば、いつもの常客大抵は已でに去り、彼方の室に、たゞ支那人と手代らしき人の會食するのみぞ見られける。互ひに談ふは、漢語か洋語か。支那人は油こき日本語を語り、日本人は英語を胡椒と共にチラとふりまきたる贊美すべき自國の語を談らふにぞありける。
他に客なしと見しは、見えざりしなり。此方の吸烟室のソーフハに横ざまに長ふなり、臂を曲げて美くしく掻分けたる頭らを支へ、口にマニラのシガーを優にくはへて、折々目を細くしつゝ煙を避け、右手に今日の都新聞をさゝげて打よみ居たる紳士あり。服のこのみ、襟の飾り、たゞものならず見ゆ。面て淺黒く長く、鼻高く口元しまれり、眼光如何にも鋭どきやうなれど、猫の半ば眠るときは獲物に飛かゝる時の景色はあらず、腹飽きて躰ゆるみ、うとり／＼として善もなく惡もなき境ひに彷徨せんとせり。
日本の平民的洋服を着したるもの見ゆ。そは紳士にあらず、股引法被を着けたる此店の給仕なり。飛鳥の如く立働らき、室内を右往左往に走せまわれど、趨るに調子を合すれば、音もなし。
ヒラリと來りて喫烟室を一瞥し、意得顏にて去りぬ。
支那人は、酒力まわりて舌いよ／＼動かず。手代は陶然として、天下を我ものと見るめり。
ア……アナタ、よ、よろしい、私し、チ、チごる。
サンキウ、パツト、ムー、然し乍ら、すまないチー。
給仕は笑ひもせず見やりつゝ、仲間にむかひ、
□今日はまだ、川上さんが來ないじやないか。
△遲いやうだ、もう止か。
□川上さんが來ないと、何んだか、さびしいやうだ、口は隨分惡いが、腹は極く奇麗だネ、丸で、アレ（喫煙室を指ざし）とは表裏だ。
△手前は豪氣に川上びいきで、チカシヒぜ、ダガ男だナア、此頃の競爭はどうだ、小氣味の好い樣じやないか、夫でもあの通り平氣で、ビクともしないからネ。
□昨日も己だつて心配だらうヂヤナイカ、旦那どうですと聞たら、「イヤ、大分損をした、然し損ていノタ、もうからないと云ふとだ、もうからなければ其次はもうかる

に詮てるつて、大笑ひさ。一年位で、あれ丈け名を賣つた男はナイチ。

△夫にきり離れが好や、隨分痼癪もちだが、其かわり好く氣がつくから、使はれてるモノハ、丸で昔しの子分さ。

□幡隨院の長兵衛と云ふ意氣込だナア、旦那は。

折から、いらつしやい、昨日は旦那ありがたふ、大層御ゆるりで居らつしやいましたの聲に送られ、何やら亂暴なる挨拶をしながら、登り來る客。

給仕はふり反つて、夫ら旦那ダ」、

大層御ゆるりで。

大層御ゆ……………。

ヲイ、何か甘いものがある乎。

三十四五の如才なき男同伴せり、切りに笑を造つて愛嬌をこぼす。笑を造るものは毒を醸すものなり、蜜ある處ろ蜂に刺さるゝの患あり。

風通りの好き處ろを見計らつて、どかりと腰をかけ、茶の上衣を脱いで無遠慮に隣の椅子に投かけ、チヨツキのボタンを外づして大團扇にて風をあふぎ込み、あつい〳〵と言つて運れの人に頓着せず。

連の如才なき男は、之に倣つて恐る〳〵ボタンを外し、少々風を迎ふるやうなれど、風を迎ふるにあらず、同行者の心を迎ふるなり。相手の態に倣ひ、折にふれて媚を呈するを此流亞の秘訣となす。言はざる先に、既に唇を動かし、ニコ〳〵として、

時に、先刻申上ましたお話しは、何分、色好い御返事をと、私しから代つて願いますので、先生、隨分恐るいお話しでは有ますまいが。

フー、

と鼻であしらい、愛想もなく、禮儀もなく、

マア、あとにしよう、君は何か飲むか。

結構ですが、此うあつくては、どうでせうビールの中へ氷と云ふあつらへは、先生は何如で。

よからう、ヲイ、ビールだ、氷を入れるんだぞ、早くしてくれ、ぐづ〳〵は禁物だ、あつい〳〵。

フオーク、ナイフをおもちやにしながら、彼方の支那人を見付け、大聲にて遙かに、

チイ、唐人先生、チャン〳〵先生、大分まはつたナ、晝前でドッシリ取つたナ。

豚尾をパラリと揮ひ、此方を向き、目を据て、

川上チエンチエー、ヤー、遲い、晝から、根岸、競馬、いかゝ。

モウ、御免だ。

無愛想につきはなし、初め此方より話しかけて、今は勝手に横を向き、

チイ、まだか〳〵。

連の男は、少しあきれたる心持にて、キット川上の樣姿に氣をつけ、今更のやうに其風采を窺がへば、顏は割合に大きけれど、眉毛、漆もて一大文字を引ける如く、黑く深く墨つき、其尾龍の跳れるさまにて額に登る、口元さなきだに嚴しきを、尙折々キットかみしめ、音聲鐘の如くひゞけど、早口にて聞分きがたきこと多し、取分け激して癇癪の氣味あるときは、眼のみ爛々として、何を言ふか分らず。連の男は、此時未だ確とかゝる場合を認めずと云へど、かゝる癇癪の種は、一句一語の內にも多少含まれ居らぬことなし。

今はむかし （其二）

ひさご

七夕早過て晴わたりたる空、照こみたる日影馬鹿囃子の太鼓に熱つさ加はゝりて、狹き小路人の埒結立し如く、立ならふは祭りみん爲なるへし、御玉はこの祭見ん爲ならず、見られん姿昨日にかはり、金糸の渦ひたと縫つけし七草模樣の振袖うす紫なるが上に黑繻子に銀糸の瀧、出世いはふ鯉の目に玻璃入しを結び目に出し、黃あるしごき房々と細腰にさげ、高嶋田に結あげて銀の平打、鼈甲の花笄、おもげに俯むきて睫の露やゝもすればおちん風情、母は前に見後に見やゝと歎賞の聲人の聞けかしと、玉もみがゝずは光り出じと聞し諺、おもひ當りしはけふ成けり、父御は我妻に奉公させ、家の調度なほたしまへに賣りて得し晴衣裳のけふの出立、みんもうし、みぬもつらしと、武藏鐙、手綱もたれし昔氣質、ともすれば出て、まだ起ぞ出られず、それもこれも心息すめまつらんは御身の心一つなり、母を呼もどし、前に增らん調度買とゝのへんは、今日をはじめなり、兩腰を挾みたる若士、殊に笠深く冠りたるに心をとめ賜へ、かゝるは貴人のしのび出立、多しとかねて聞ぬ、角屋敷の前わたりにはづかしとて下を向、母か心入

てつくりし顔をあたら地に斗見せ賜ひそ、目鼻立美しとて町の若人に目を遣りて弄りものにされ給ひそ、といひ諭す顔つく〳〵とうちみて、ハラ〳〵と涙を流し、心なき鳥獸も子を思はぬはなしと聞けば、又子として親をおもはぬはあるまじき世に親の御心の曲れるをしりながら、諫もあへで、今日出たつ心のくるしさ、苦をしのびて、娘のよに出ん事を求めたまふ御慈愛の深さ、淺き心にはかりしられねど、花もなき顔かたち、人中に晒したのめぬ事たのみて不義の富貴を求めたまふは貧に心も卑しく成ぬ、と譏しる人こそ多からめ、よき事しぬといふ人のあるべきや、叱り懲らさるゝが切なさに親の心に隨がひて、親を不義非道といはせ奉る罪おそろし、幸にして不幸といふ言葉は我身の上なりと泣く〴〵をおしとゞめ未浮世の事しりもせぬに、さかしら立て何いふ事ぞ、四角な文字の少し斗、よみもし、かゝせもしつるは、今日の如き首尾をたのみてなり、不理屈親に聞かせよとにはあらず、けふは目見えもおなじき日なり、必ぬかりたまふナ、妾てかけに出る事なき例にもあらぬを、こなたよりしてたのみしにあらず、若人達にたのまれて、けふ出る序に見せよといはるゝは角屋敷を初めとして、まだ幾軒もありと聞けば、明日よりは御部屋樣、人に敬まはれ崇とまるゝは好まずや、泣事かはとなぐさむる裏口に口入婆の聲するぞく、御內儀〳〵迎へにきたりぬ、かの、邸より急に連來といはれたり、とく〳〵とせき立るに、母は娘をせき立て、門口へ送り出せば、お玉は振袖打かへし〳〵とみかうみつゝ、身にそはぬ晴衣裳、母君の身にかへ給ひしとおもへば身もなへ、しびるゝやうに、おぼえて、つゝれ衣に春の花見の心安かりし事思ひ出られぬ、かゝる思ひせんよりは、しなん方遥にまさらんといふを母、鶴龜〳〵とおしとゞめ鼻髮は持つるか、涙を人にみられナ、忘しものはなきやと、もつれぬ毛も我さし櫛に又搔上げ、衣紋つくろひておし出す、おもての方出るぞ〳〵と人聲高く、向の屋根の上より大地迄、黒山の如き人立、あなやと再度かけ入んとする娘の後の方にははや長柄の傘さしかけ、前より横合より團扇にあふぎたつ、お玉今は是非なく、助けられつゝあゆみ出るに、群ゐたる幾百の人ともに、動き出て、一擧一動同じ人の如く、甘きに集ふ蟻に似り、かゝる混雜をよそに口入婆にせき立られ、小包引さげ立出る母親、窓によりて見おくる父親、心は一ツ二筋道を生死の堺としらぬも是非なし。

批評

○闇中政治家　漁象子

全篇の傳述者は、老ひたる父を喜こばせんとする孝子なり。默雷の如く伏龍の如き怪大事業を計畫せしめたるは、獄裏の闇中政治家なり。題號極めてよし。作りものめきて確かに製造の跡は露はるれど、暴知事が無道に慣ふりたる當日の義俠所々に迸出し、假作をして活けるが如く感ぜしむる節なきに非ず。婦人の優しき情に乏しきを一つの憾みとすれど、初段友を慕ふの切なさは幾分か此の欠を補ふに足る。文章は、

悚然として顧りみれり

あどの句ありて、硬軟未だ圓熟せざる心地すれど、探偵を叙する報知社風の文氣を存して、一種の味はひに富めり。要するに、近ごろ拔群の作と云ふべし。世の人が之を彼是と評して多少愛讀するに至れるは、文界の吉兆とや云はん。

○長者鑑　同

二十三階堂主人の作あり、露伴に似て別に一風あり。無用の叙事に勞を費やしたる所ろも見ゆれど、趣構文章ともに凡あらず、余は初めて此人の作を讀み、密かに望みを囑す。第五回、系新が陳情の手紙、壓卷の出來なり。結末今少し餘情ありたしと思はれたり。

○辻うら賣　同

忍月居士が作なり。當路者としての居士は、傍觀者としての居士に及ばずとは、兼て風評ありしとなるが、居士が曩の日の二小説に比ぶるときは、此方一段見ごたえあるやうに讀まれたり。但だ讀み去りて左程に悲しからず、終末の一葉、半ば裂けたる手紙を子に與へて暗に前夫を諷し、義理に縛せられて言い盡し難きの情幾分を洩すに至り、少しく涙の落つる如き心地せり。

○中等教育、國文學　次郎

高津鍬三郎、和田万吉兩文學士が編纂にして、嘗て日本文學史編著の際み、精を拔き華を摘み置かれたる本邦古今の名文章を、好き程に編列せられたるものなり。左れば、摘採の文書も多く、探集の文も世の常あらず、在ふれたる文章集よりは價ひ多し。たゞし、後の卷に至るほど、文章のやさしきは何故ぞ。序引など云ふ本書の用ひ方諸方なんどに注意する、案内のなきも亦殘り惜し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○護　教

「護教」はメソヂスト諸派の主義感情を代表する者と云へり。一週一回の發行にして、基督教新聞、福音新報などと相對せんと欲するものなり。本田、平岩の二氏名は署したれど、執筆は愛山生(山路彌吉君)の手に成るもの多き樣なり。愛山生が文才と批評眼とは、女學雜誌の讀者が夙に認識せらるる所ろなるべし。文壇今ま新たに此英才を登し來れるは大ひに賀すべきとなり。

○谷間の姫百合

第四卷を再版し、大ひに改削する所ろあり。他日細評するともあらんと心約す。

時事

○支　那

誰か支那を嘲笑ふものぞ、維新前の日本國に鑑みて幕末長年の積弊を憫察せざる可らず、一朝雲蒸し氣發するの時、誰か四百餘州脫然として開化するの機あらずと云はん、此勢ほひの必らずや自づからにして來ることを思はず、今に於て只だ之を嘲笑輕罵するは、大國を知らざるの輩のみ、請ふ先づ一見せよ、新來の公使、提督等、何如に鋭俊敏達なるかを。

○外人の義捐

同胞は津田の姓を惡み、三藏の名を惡み、堂々たる法律の文面にすら、衆議院の副議長の名にすら、用ひたる所ろの文字夫自身を惡む折柄、横濱の横字新聞ヘラルドは、津田三藏が遺族の爲めに義捐金を募集せんとなしぬ。中途遠慮する所ろありて止めたれど、好意は消す可らず。

○宣教師女學校の革命

諸君大ひに悟る所ろあり、着々革命の運に從はんとす。本號雜錄欄内の一項を參看せよ。

○紳商末

生れて血性あり、不幸にして有事を好む、坐して靜平の業に膝を抱くと能はず、躍立して太平界の戰爭を爲さんとを欲す。彼等素より爲す有るの人物たるを失なわず。

惜しむべし、兵の將にして將に將たるの器にあらず、社會に大理大勢の存するを知らずして、算機を無理に運用す、失敗又失敗、止むとを得ずして卑劣不正の手段を運らす、此より以後際涯なし。

馬脚露はれ來り、末路の露拂ふものなし、門前虫すだき、昨朝の車のひゞき聞えず、憫れむに堪へたり敗軍の將。

○説　法

諸君猜むとなかれ、諸君分裂すると勿れ、願わくは一大連衡を鎖結して、大ひに吏權黨に向わん。

其二

書生輩に任ず可らず、世は無政府とならん、敢て藩閥を維持せんと云ふにあらず、乃公黒幕裏に之を操らずは、蒼生を何如にせん。

其三

自由は天賦なり、人權は天與なり、個人主義は眞理なり、國家主義は無用なり、鄙、都を去ると彌よ遠くして、響益々高し。

○野に養ふものあり

野に遺賢なしと云ふ乎、朝に眞賢なきがゆえなり。誰か今の舞臺世界を見て人物此丈けなりと云ふものぞ。昨年國會開設以後、野に隱れて大ひに養なふもの増加したり、たゞ一劉備の出で、能く之を吸引せんとを待つ耳。

○士　風

士風の廢れゆくや彌よ太甚し、人相ひ信ぜず、結ぶに腐縄を以てす、一諾万斤の義氣は小説に殘り、弱を救ふの氣骨は芝居道にも種切れとなりぬ。先生なきが故に弟子なし、主領なきが故に幕下なし、知己なきが故に友人なし。四千万の人は、四千万の心を誇示するに至らんとす。

○桑港の義士

桑港の義士五十名、會を結びて醜業婦女子の上陸を檢査し制止し保護し善導せんと云へり。文明國に於ける醜業者の取締は、之よりも有効にして且つ當然なるものはあらず。吾人は此の吉報を聞くとを喜こぶ。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

○北海道の山林

內地の山林すでに半ば荒廢に屬せしものを、今や北海の表、鬱樹巨木、高天を磨するの大美林を又亦續々暴し去らんとするものあり。國家の大經濟に着目するものは、速かに猛斷施理する所ろなくんばある可らず。

○植民規則

新外務大臣は、將に殖民課を新設せんとし、殖民規則すでに脫稿せりと傳ふ。而して更に慶すべきは、禁酒軍の英將安藤太郎君此課を管治すべしと云へり。凡そ健全清正なる殖民にあらずば、寧しろ初めより着手せざるに若かず、然るに安藤君禁酒的殖民の意見を以て之に應ぜんとす、我國の幸事之に過ぐるもの少なし。

○賄賂々々

之を責むるもの、之を辨ずるもの、之を受しもの、之を仟くもの、抑そも深き因緣ありて存す。然れども、公然紙上に之を筆責するもの益々增加するは、社會公德の進步にして大ひに慶すべき也。須からく、いよ〳〵之を暴くべし、而していよ〳〵之を筆責すべし。

女報

可愛子編

●兩親王の行啓　常宮、周宮兩內親王殿下には、去る十一日午前八時五十分上野發の列車にて、日光地方へ行啓遊されたるが、御供奉には佐々木伯爵同夫人、其他女官等なりしが、御送としてハ曾我中將奥少將を始め、其他高等官の方々なりし。

●谷子爵夫人の蠶絲業　谷子爵の邸にて每年養蠶を爲すの慣例あることハ、同邸に出入する人々の知る所なるが、本年は分けて上出來のよしにて、繭の上り高は凡そ六石餘に及び、昨今既に生絲と爲して座敷に列らべ置きたるものを見るに宛ながら製絲場の庭を見るが如く、家庭慰みの仕事とハ思はれずと云ふ、斯る結果を收むるには子爵夫人自ら養蠶婦と爲り、家內の人々を相手にするのみにて、一人も他人を雇ふことなく、又た桑葉も邸內の桑園にて摘み取り外方より買ひし分は僅に十五六圓のみなりとか、農桑を事業とする家にても、一家內の力を以て六石以上の繭を取るは隨分珍らしき働なるに、貴夫人慰み半分の仕事としてハ先づ比類なき仕事なるべしと、同家へ出入する或る農夫は驚嘆せしと云ふ、飼養の最も忙しき期節には、夫人は每夜半より竊に起きて蠶室に入り、家內の人々目覺むる迄は一人にて從事すとのことなり、貴夫人に似合はぬ勉め方といふべし。

●華族女學校　同校の夏期試驗は此程既に完結し、本日卒業式を執行せらる。

●高等女學校　東京府高等女學校は生徒第一年級生徒を募集するに付、入學志願者は九月三十日迄に履歷書を添へ申出すべしと、夫々通知したりと。

●東京音樂學校の卒業式　は去る十日執行、外山博士の演說あり、卒業生は（專修部）岩原愛子、石岡得久子、瀨川朔子、依田辨之助、根岸磯榮子、久間和嘉子、村松秀子、丸山登女子、荒井愼子、（師範部）高木武子、福永竹男、合して十一名なり。

●明治女學校　は來る二十日より九月十日まで夏期休業、但し職業部のみは、休みなく教授するといふ。

●婦人矯風會風俗部　に於ては、本月二日赤阪靈南坂教會に開會し、網嶋佳吉氏「日本婦人の位置」てふ題にて演說せり。

●レース製造場の資本移轉の請願　士族授產金に關係あるレース製造場資本家中の一人なる高野好氏は、今度其の資本權利を抛棄したる由にて、東京府士族總代より同族一同の共有物に引移し度き旨、知事宛にて請願書を呈出したる由なり。

●下婢　每年夏期に至れば、商業も自然閑なる中にも、分けて本年府下の不景氣甚しく、雇女を解雇して自炊するもの多きより、昨今何れの受宿を見るも雇女多く、從來一ヶ月一圓の給金のものも、三割を減じて尙ほ奉公口を尋ぬる有樣なりといふ。

●凌雲閣上藝妓の寫眞　東京人は何とて斯く情けなき、如何に射利の爲めなりと

多くの內外人の昇る凌雲閣上に賤業者の寫眞を掲げんとは、嗚呼是れ道德の卑きを吹聽する唯一の廣告なり、筆を投じて歎又歎。

●慈善大演說會　去る十一日、江東中村樓に於て、彼の義商黒岩市兵衛氏の爲め慈善大演說會を開けり。

●女學生と「つぼみ」　關東の「女學生」は、明法女學校、女子學院、跡見女學校、東洋英和女學校、東京英和女學校、成立學舍女子部、女子神學校、女子獨立學校、立教女學校、海岸女學校、長榮女塾、頌榮女學校、(以上東京)フェリス和英女學校、共立女學校、(以上横濱)金城女學校(名古屋)高田女學校(越後)、合して十六校の文學會同盟して、女秀才の文を出し、我が社員之が編輯をなす、關西の「つぼみ」は、同志社女學校(京都)、梅花女學校、一致女學校(以上大阪)英和女學校(神戸)、山陽英和女學校(岡山)、英和女學校(鳥取)、松山女學校(伊豫)、清流女學校(名古屋)、熊本女學校(肥後)、合して九校　同じく女秀才の文を出し、女文會之を編輯す、何れも毎月一回發行とす　若し之を手にして一讀せば、明治の女學生斯くまでに進步したるかと、驚くべきものあるべし、吾人は現時の新聞紙が、女學生を假裝する賤婦、若しくは、一二の輕佻女子を見て、事々しくも、女學生の醜聞などゝ記載するの不明、不德を惜む、故に益々此雜誌をば、世上の君子に招介し、以て眞正なる女學生の面目を發揚せんとす。

●本月發行の女學生　は例月よりも多く女生徒の文を載す、附錄には、簡潔なる富士登山の記あり、鮮明なる富士山の銅版圖を掲ぐ、廣告に就て見るべし。

●横濱共立女學校長クラスビー女　は暑中休暇の爲め、岩手縣盛岡に赴かれ、宣教師ポート氏方に滯泊中なり。

●製絲工女と製絲賃錢　茨城縣水戸地方に於ては、昨今工女の欠乏を告ぐるといふ、而して其製絲賃錢は繭一升に付き金四錢位なりと。

●箱根夏期學校　はいよ／＼本月十七日開校。

●山梨英和女學校　は去る七日より暑中休業を爲し、教師ウヰントミユート、プレストン、金子せん子、前田しづ子の四孃は出京せり。

●滋賀縣下の製絲工女　滋賀縣にても長濱近郷は有名の養蠶所にして、從て製絲工女の需要多きを以て、毎年此頃に至れば越前地方より出稼ぎするもの夥しきに、本年は工女の入り來るもの頓に其數を減じたるを以て、製絲家は大に其欠乏を訴へ、人を派して國境に至らしめ工女と見ば甘言以て誘ひ歸る有樣にて、賃金も一日十八九錢より二十四五錢位に上り、平年の三四割方も、騰貴するに至れり、今かく供給者の欠乏する原因を尋るに、近來越前地方にも養蠶製絲の業大に進步し、從て多くの工女を要するを以て、他國に出稼するに至らざるによるといふ、同地方本年の春蠶は頗る上出來なりといふ。

●天主教の小學院　去五月一日に開業したる京都下京區三條高倉西入聖累斯小學院は、最初貧民の外は入學を許さゞる規則なりし處、其後天主教信者にして子弟の入學を申込む者續々あるに付、今度何人にても入學を許すことゝしたるが、尙ほ貧富に拘らず授料業は徵收せざる由、而して同院目下の生徒數は男三十名女二十名なりと云ふ。

●産婆免許　宮城縣仙臺市內の人にて、高橋ちとせ、山田なを子、外二名の婦人は、此程産婆免許狀を授與せられたり。

●京都普通學校　は去る十三日より暑中休暇なるも、有志者には休みなく教授する由。

●故榊原鍵子刀自の追悼會　京都尾崎宍夫、遠藤千胤等諸氏の發起に係る同追悼會は、去る十日より鴨東有樂舘に於て執行せり、來會者七十餘名。

●畠山勇子の追悼法會に就て　京都倭蹈谷風社の石川羅洲氏は、絹地に畫きたる勇子の肖像を寄附し、勇子を曳きたる人力車夫は、同人より貰ひたる婦人持蝙蝠傘を寄附し、其他の寄附物も多かりし、又下原元十六組小學校及び八條壬生中堂寺三村小學校女生徒は唱歌會を催し、近傍の慈善家は餅二石を寄附して之を貧民に施與したりとぞ。

●大阪婦人會の梅澤まさ子氏　は、大和郡山に傳道せらるといふ。

●女生徒藝妓に代用せらる　去る七日前福島縣知事山田信道氏の送別會を同縣に開きたりしが、宴會席上一處女の酒間に周旋するものあり、何者ぞと聞けば福島小學校裁縫生徒何某(十八年)と云へる女子にて藝妓が足らぬ故是非とも出して呉れよと立ての頼みに、是非なく出して藝妓の眞似をさせたるなりと、なほ其他に素人娘數名酌に出でたる由、敢て問ふ委員何人ぞ、此奇怪無禮の所爲をなす、識者請ふ鼓を鳴らし之を攻めて可なり。

●金澤女學校　北陸金澤なる同校は、六月廿六日卒業式を執行せり、卒業生は全科二名、英語科五名、本邦科五名、合して十二名なり、學校創立以來全科卒業生を出せるは、今回を以て嚆矢とす。

●婦人の義捐會　宮城縣仙臺市、日本基督教會の婦人は毎月一回相會して義捐會なるものを開き、握足袋なぞを製し、その金は之を貯蓄して教會なぞの必要の節寄附せんとて、驛遞局へ預け込みつゝあるが、已にその高百餘圓に及べり、今回其內より、教會修繕費へ二十餘名寄附したり。

●女子執事　同教會の役員改撰し、新たに舉げられし長老五名、執事二人の內、一人の執事は女生にしてその名を大塚たつのと云ふ。

●修身講話　又同教會の婦人の爲め、押川方義先生は毎月一回万國の粹を拔て、修身上の講話を開かる(是迄は第一木曜日)。

●白石町婦人會　は、去月廿一日に開かる、全町今泉よし子、加藤かつ子、二子等の發起にて入會者二十余者ありたれば、會合して規則などを議したりと云ふ。

●宮城女學校　に於ては已に本年度學期試驗を了へたるを以て、去る九日閉校式を施行したり、又試驗の成蹟に由り九十點(平均以上)の點を得たるもの四名を賞して、一學期中(來)の授業料を免除したり、其人名は、齋藤ふゆ子(三年)石川むめ子(二年)小平こゆき子(一年)尾花むめ子(一年)。

●日本全國卒業女學生人名人數一覽（學校創立より本年四月に至る、）（第七）

●東京の部（七）

●東京府高等女學校　小田いさ子　市東ゆり子　青木いよ子　吉川やへ子　平泉よれ子　杉岡もと子　早川つち子　小原ひさ子　長谷川よし子　花形ちよ子　長谷部せん子　椿のぶ子　上田さと子　市岡かし子　中村なほ子（合十五名）。

●海岸女學校　（卒業生二十二名）。

●立教女學校　（卒業生二名）。

●駿臺英和女學校　（卒業生三名）（以上三校は、卒業生の姓名を出すことを好まずといふに付き、出さず）。

●東京女學館●女子獨立學校●淑女館●高等女子佛和學校。（以上四校は、創立日淺く、未だ卒業生あらず）。

●地方の部（一）

●（横濱）フエリス和英女學校　篠原ゑい子　瀧川ひさ子　佐々木たつ子　松田きみ子　石井かれ子　矢嶋きせ子　吉田たよ子（以上和漢學科卒業）（合七名）

松田みち子　濱口なみ子　林さだ子　露木みさ子　植おりえ子　正色むら子　稲垣ふト子　河口さよ子　林もしに　齋藤やす子　岡東きぬ子（以上英和學本科卒業）（合十一名）。

嶋田かし子　坂従やす子　稲垣さよ子　長谷川みれ子　星野こう子　平野はま子　佐藤てつ子　新井きく子　片山よしゑ　世良田はな子（以上英和學高等全科卒業）（合十名）。

（總計二十八名）。

週報

●官令　八日勅令を以て外交官領事官貿易事務館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則を裁可公布せらる●十一日外國公使館敷地の爲官有地を貸渡す場合に競爭を要せざる件を裁可公布せらる。

●政治　九日東京市會開會●同日鳥取縣第三選擧區撰出衆議院議員松南宏雄氏の辭職許可せらる●十日自由黨代議士協議會●同日壯士各大臣に辭職を勸告す●同日子爵議員補欠撰擧梅小路定行氏當撰●十一日内閣會議●同日上下兩議院議員紅葉館に會す●十二日内閣協議會。

●教育　八日第一高等中學校卒業式●十日帝國分科大學卒業式。

●雜報　十一日滊船瓊江丸他の滊船に衝突し沈没す乘客二百五十名溺死。

品名	七月十六日
白米（一円ニ付）一等米	一〇〇（斗升合）
二等米	一〇二
三等米	一〇六
四等米	一一〇
五等米	一一五
正米（一円ニ付）越中米	一五二（斗升合）
越後米	一四五
美濃米	一四四
庄内米	一四八
一志米	一四〇
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	三四〇（斗升合）
上州小麥	二〇〇
竹林麥	一九八
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九二
吟小豆	一五〇
白胡麻	一三五
黒胡麻	一五〇
鹽（一円ニ付）赤穗	三、五〇
大鹽	三、六〇
本齋	五、八〇
新齋	六、四〇
醬油（一円ニ付）	（樽分體）八〇　八六　九〇　一、一五　一、三五　一、六五　一、八五　二、一〇　、、　、、
最上	
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌（一円ニ付）地製上白	七、〇七〇（貫）
同上赤	七、一〇〇
同紅赤	五、〇〇〇

品名	七月十六日
夏織物（一反ニ付）	七、五〇（円）　二〇、〇〇　四、五〇　五、八〇　二、六〇　三、六〇　三、〇〇　円、八〇　二、八〇　三、六〇　四、五〇　五、八〇　一、二〇　二、〇〇　一、三〇　二、二〇　、七〇　一、三〇　三、二〇　三、五〇　一、二〇　円、三〇　一、〇〇　一、六〇　、八〇　一、九〇　三、八〇　五、八〇　五、三〇　八、〇〇　五、三〇　八、〇〇　二、五〇　刃、〇〇　五、七〇　八、八〇　円、五〇　五、五〇　七、〇〇　八、三〇
薩摩上布	
越後上布	
同紺絣	
同縞	
透屋絣	
明石縮	
奈良絣	
能登縮	
近江生平	
生越後縮	
薩摩紺絣	
同白絣	
鳴海絞	
絽	
京御召縮緬	
桐生同	
銘撰縞	
結城紬紺絣	
同縞	
壁一楽織	
木綿織物（一反ニ付）伊勢糸入縞	九〇（錢）
笠井糸入縞	八〇
佐々絣	一、二五
糸入愛國縞	九五
物産縞	六五
一本絣	九〇
伊豫絣	八〇
白木綿（一円ニ付）玉鶴	三、五〇（反）
綾鶴	三、八〇
日ノ出鶴	四、一〇
若柳	三、二二
稲留	三、四七
蓬萊	三、九三

品名	七月十六日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	一、七〇（円）
同稀頭	二、三五
同大頭	二、〇五
同中頭	一、六五
同中茶	一、二五
狹山稀大頭	一、九八
同稀頭	一、六〇
同大頭	一、三〇
同中頭	一、二〇
同中茶	九〇
素麵（一箱ニ付）長素麵	七〇（錢）
切素麵	八〇
折素麵	三三
片栗麵	三五
鰹節（十貫目ニ付）薩摩大	一六、〇〇（円）
伊豆上	一九、〇〇
城の腰上	一七、五〇
遠州上	一七、〇〇
銚子節	一二、七〇
水戸磐城上	一二、八〇
土佐大	一〇、〇〇
水油（一樽ニ付）地水	六、六〇（円）
胡麻	九、二〇
荏油	一〇、〇〇
桐油	六、七〇
綿油	、、
坂水	七、七〇
石油（一箱ニ付）チヤスター	一、六三（円）
ブボース	一、六二
ホーキ	一、六六
ロシヤ	一、六〇

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家庭

版價

女學書類發行

女學雜誌社編輯

子供の談

紙數八十葉 郵税なし 定價十二錢

右は子供の爲にある好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、薫の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とダヽイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、まましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮

紙數六十七葉 郵税なし 定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を過する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理

紙數百九十葉 郵税なし 定價廿五錢

右は、月經の事。懷妊の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内

紙數百廿葉 郵税なし 定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草

紙數百六十葉 郵税なし 定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學

紙數百六十葉 郵税なし 定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	產婦小見攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼著	昆虫 植物 金石 採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰著	和畫手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治著	鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學講義録

第壹號紙數百十頁餘本日發行目次左ノ如シ

皇后陛下の御聖德　　落合直文謹誌
國史學　第一高等中學校教授　小中村義象
作文法　第一高等中學校教授　大槻文彥
育兒訓　帝國大學在勤醫學士　近藤常次郎
書翰文　　小中村義象
習字敎授法　　岡田起作
式紙書式（習字）　　多田親愛
看病法　帝國大學在勤醫學士　馬島永德
女禮式　　有住齋
衛生學　醫學士　森林太郎

右ノ外每號日本ノ婦女トシテ現今ニ必要ナル諸學科ヲ當代第一流ノ各專門學士ニ囑托シ親切平易ニ講述セシム

毎月二回發行（當分一回）壹ヶ年定結定價一部金拾貳錢十二冊金壹圓拾五錢（無遞送料）凡テ前金ニアラサレハ發送セス郵劵代用弐割增ノ事

發行所　東京神田區仲猿樂町十五番地　女學通信會

暑中見舞

知己諸君よ●義友の抱扶により近來女學雜誌社にて「一額に汗」罷在候間御披露申上候●野條愛助儀

女學生

第十五號には、暑中休暇前の奮發に成りたる八校の女秀才が腕くらべの文を載す

附錄には銅版富士山の圖を入れ、天知子、可愛子が簡潔明快なる紀行を掲ぐ。

毎月一回發兌●一冊郵稅共六錢

女學生
悲哀胸を打つ……

まとひの縺
偶感數番……暗光子
英雄の眞面目（偶感二）……川合信水
學友よりの手簡……山月子
都下の夏遊び……如是子
樂情……野雄

睡びの家
春夜書感……（明治女學校）鈴木げん子
婦女子の職務……（女子學院）瀧口みか子
古烈女の傳を讀む……（女子神學校）森田千、子
普通學の必要（下卷）……（頌榮女學校）德淨くす子
竹に對するの感……（女子神學校）山田いく子
春日山に遊ぶ……（越後高田女學校）赤井さいら子
女子獨立學校閉校式祝歌……（女子獨立學校）加藤さし子
卒業式の感……（立敎女學校）伊藤さよ子
水邊納凉……（東洋英和女學校）飯塚しづ子
校を閉づる時……（女子獨立學校）矢田たき子

附錄
富士登山の仙話（富士山の圖入）……天愛子

女學生全盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立敎女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○靑山英和女學校○金城女學校○高田女學校

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

米國神學博士ニユーマン、スマイス氏 原著
マスターオフ、アーツ 小谷野敬三君 村木經策君 合譯

耶蘇の非凡

定價十二錢
郵稅 二錢

今や基督教界中一方は古風に過ぎ一方は自由に流るゝの間に立ち毅然として中正の方針を執り哲學理學の關係を論盡して基督の神性を明示し眞實忠正の信仰を養はしめんとするは本書の特色なり蓋し該書は改進的宗教家中屈指の秀才なる米國神學博士ニユーマン、スマイス氏の著にして論理の該博斬新なる復近來稀有の良書たり今小谷野敬三村木經策の兩君合譯せらる是修德正行の伴侶たり人生行路の指南車たるを得べきは敢て弊店の保證する所なり四方の諸兄姉希くは一讀し賜はんことを

發行所 東京市新橋出雲町 警醒社書店
關西賣捌 大阪西區土佐堀三丁目 福音社

再開業
下谷西黑門町 （女醫） 荻野ぎん子

特に女學生諸君の爲に別室を準備し且つ特待治療す。
外神田松永町 渡邊泰

●●●●●●●
專門
梅毒 痔疾 子宮 淋疾
右四科ハ院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管該患者に施療したる處にして速に全治受合なり若し全治せざれバ藥價返却す●但し診察無料
京橋銀座二丁目東仲通 畑中堂 山本醫院
●●●●●●●

面接日 木金兩日 后四時下 （於社二） 巖本善治

むし類の石類 木葉類

採集法

右ハ星野愼之輔君が農科大學に於て實地硏究より得たる簡便の採り方なり歸省の人、漫遊の人、庭園に遊ぶの人此一冊を携えて夏期の暇に實地觀察の學問を怠る勿れ

賣價十錢 郵便切手一割增し 郵送賃二錢

女學雜誌社

島山勇子

西京に自殺したる一女子が性格を評論し、其玆に至りたる因緣を推窮して、細かに其皮肉を覿ひたる社說は女學雜誌第二百六十八號にあり之に續き其次號に於て、自殺に三種あることを說きて之を痛論したり。

自殺論

廣告定價

一行	一回	前金拾錢 （廿七字詰）
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す慈善上の事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會告等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

雜誌定價

一冊。	六錢	郵稅。	五厘
十一冊。	五拾八錢	郵稅。	五錢 （但府內無郵稅）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢 （同　前）
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

御藥はみがき

定價　一袋入二錢　一箱入四錢　一鋪入八錢

●時事新報　齒磨水晶散は原質香料等を精撰したるもの也さ

●東京朝日　近ごろ漸やく世人の齒の養生に注意する様になり隨つて朝夕便用する齒磨まで無害有効の品を撰ぶこさなるが今度三好堂より賣出したる水晶散さいふは某大醫の方劑に出り嘗に口中を清潔にするのみならず齒齦を固め口熱を冷すなどの諸効あるものなりさ云ふ

●都新聞　水晶散は紅白二種ありて芳芬薔薇の如く之を用れば口中の惡臭を去り齒をすりへらすの害なき由

●郵便報知　藥はみがき水晶散は獨逸齒科醫ユリウス、パライト氏の處方に基き精製せしものにて無害の良齒磨也

●改進新聞　齒磨水晶散は品質精純芳芬香薇の如く衛生上無二の良齒磨也

●自由新聞　齒磨水晶散は名醫の方劑にして其質精微齒障の憂ひなく購者踵を接して到たる

●あづま新聞　水晶散は獨逸齒科大醫ユリウスパライト氏と我邦大醫の折衷の方劑に掛り口中諸病に特効あるのみならず芳香十分にして常に之を用ふる時は水晶の如き齒になるさいへば紳士淑女の間には最も必携の良品なり

●民權新聞　藥はみがき水晶散は名醫の方劑を以て撰製したる者にて近頃の好品也

●中新聞　齒磨粉水晶散は獨逸齒科大醫ユリウス、パライト氏の處方に基き藥品を撰み精製せしものゝよしにて口中一切の患を除き齒の實質をへらすことなくして光澤をよくする有効無害の好齒磨なりさ云へば貴女紳士方は毎朝お目醒の友さなし見玉へ

●女學雜誌　齒磨水晶散は質良好にして芳香あり用ゆれば口中の清爽を覺ゆ

●朝陽新報　齒磨水晶散は獨逸大醫パライ氏の處方に基き精製したるものゝ由にて常に是を遣へば口中一切の患を除き又齒の性質をへらすなどの事なく光澤を増し其上香氣強くして在來のものさは餘程異るものなりさ云ふ。

本舗　東京通油町　三好堂

●特約大販賣所

東京日本橋横山町一　近源
仝仝馬喰町一丁目　三河善
仝仝　平尾
仝仝横山町一丁目　中村
仝仝　船音
仝仝　龜忠
仝仝橋町一丁目　柏粂
仝仝大傳馬町二丁目　勝田
仝仝村松町　岩浪
武藏川越　近與
仝仝　坂屋平
仝萬蒲北横丁　油四
仝秩父大宮　黑澤
仝深谷　伊勢佐
仝横濱野毛三　吉岡
上野高崎田町　若松常
仝伊勢崎西町　林寅
仝館林大辻　武藏又
仝沼田中町　中田
仝前橋堅町　中喜
仝運雀町　松留
仝　藤伊
信濃上田木町　宮島
仝上諏訪上町　大和三
仝仝角間町　藤作
仝仝　白木善

仝仝赤沼　井桝傳
仝野澤宿　宮澤
仝稻荷山　柳牧
仝高遠　大和金
仝中野町　畔上
仝伊奈郡坂下　三原音
仝松本　丸山
甲斐甲府柳町三丁目　丸茂
仝郡内谷村　松鴨和
下野宇都宮日野町　針喜
仝石橋町　戸田
仝太田原　山本
仝日光今市住吉町　弓田治
仝佐野江戸町　吉田龜
仝宇都宮　荒物金
仝足利二丁目　佐竹
常陸太田　會津茂
仝下館　京作
仝仝　八幡達
仝仲港五丁目　田中勝
仝水戸下市八丁目　中村
仝仝上市大工町　市毛
越後高田　信濃慶
仝新發田萬町　高砂孝
仝仝立實町　加藤
仝西頸城郡糸魚川　島道
仝三條　淺岡

仝高田下紺屋町　山崎
越中高岡小馬出町　富田
仝富山　大島長
岩代福島二丁目　阿波岡
仝會津若松　山形兵
仝仝北方町　大和政
仝保原　大石
仝福島一丁目　阿波幸
仝仝　金澤
仝仝　本田
盤城白石中町　高橋
仝三春仲町　糸善
仝東白川郡石井村　松本
仝相馬中村　丁子與
仝白石仲町　鎌田
仝須賀川　長谷川
羽前山形谷地大町　庄内與
仝山形八日町　松葉彭
仝米澤　柏善
仝山形蠍燭町　佐竹
仝仝小姓町　庄司
羽後秋田大工町　佐々木
仝仝阿仁水嬬　宮越
仝秋田本町五丁目　神田
仝雄勝郡湯澤　野口
仝秋田五丁目仲町　長谷川
仝秋田上通町　中村

仝秋田大町　本間
仝酒田上仲町　佐藤
仝仝米屋町　池田
陸前增川驛　鵜見源
仝仙台大町四丁目　高橋
仝仝　紅久
仝仝國分町　山下
仝石卷裏町　松川德
仝古川　阿部
陸中盛岡材木町　村井
仝宮古鍛ヶ崎　佐藤
仝盛岡新穀町　池野
仝仝川原町　中村
仝花卷　佐藤
仝宮古本町　細越
仝盛岡肴町　佐々木
仝鹿角郡花輪大町　關
仝仝毛馬内町　高橋
仝水澤横町　辻山
仝一ノ關　富永
陸奥八ノ戸廿八日町　石岡
仝青森米町　升野
仝三ノ戸八日町　千葉
仝八ノ戸三日町　江口
仝仝廿三日町　松本
仝青森大町　野崎
仝八ノ戸　工藤

仝弘前百石町　宮本
仝仝親方町　關
仝仝　山形覆
北海道札幌南貳條西四丁目　武田
仝小樽港町　島山
仝札幌南一條三丁目　喜多嶋
仝岩内橋町　小田
仝壽都大磯町　中田
仝函館大町　秋元
仝岩内橋町　本間
仝仝　菊地
仝仝　巴長
仝仝　樋本
仝函館地藏町　木下
仝仝弁天町　加藤
仝札幌南二條西一丁目　野原
安房海發村　若松吉
仝北條南町　若松保
上總勝浦　油市幸
仝仝　嵐瀨林
仝茂原　白井
仝土原　萬龜
相模厚木　江戸儀
仝大磯　伊野屋
仝小川原　伊勢彦

伊豆熱海　尾張庄
駿河島田　松本村
仝御殿場　橋和
仝靜岡傳馬町　山下
仝江尻入江町　東興
遠江濱松田町　佐野芳
仝仝　鮭勇
參河豐橋曲尺手　中村
大坂心齋橋通二丁目　森
仝南久寶寺町三丁目　田瀨
仝北久寶寺町三丁目　荒木
仝松屋町風屋橋南へ入　宮崎彌
京都寺町五條上ル淸水町　高木
神戸元町通一丁目　赤井中村
阿波德島市四新町　坂東
仝仝小通町　坂井
豐前小倉京町一丁目　升屋
筑前博多桃屋町　小川
肥前長崎見濱野町　松菊會
仝仝諏訪町　相馬
仝仝築町　森里
仝仝本相川町　成宮
肥後熊本紺屋町一丁口　上村
仝仝　永樂堂支店

Wason PL 1104 J74+

July 1891 no. 275

女學雜誌

第二百七十五號
明治二十四年七月廿五日發兌

婚姻論　社説

隱者　讀切小説

新器械　發明

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY